

# 県北 どらくろあ

第4号 2016年7月1日（毎月1日発行）

## 県北群星伝②「マスターズ陸上の鉄人」

とみひさしよし  
富久正三 99歳（三次市南畑敷町）

オリンピッククイヤーだが、

三次市にも世界記録を目指しているアスリートがいる。富久正三さん、大正六年一月二十四日生まれで、来年早々、百歳になる。全日本マスターズ陸上競技選手権大会が毎年秋に開催されているが、富久さんが来年の全国大会に出場すれば、百歳から百四歳のクラスのM100（Mは男子でWは女子）にエントリーすることになる。M100での1000メートルの世界記録は29秒83で、その更新が当面の目標になっ

ている。富久さんが陸上競技を始めたのは九十七歳のとき。三次市内で中国気功整体「健生館」を開業している貞末啓視氏が富久さんのことをマスターズ陸上の関係者に紹介、競技人生がスタートした。

陸上競技経験者である貞末氏の指導を受けて、その三カ月後には第33回中国マスターズ陸上競技選手権大会（岡山県津山市開催）に出場。九十歳以上のエントリーは久しぶりなので、富久さんの年齢が



アナウンスされるとスタンドから拍手が起こった。富久さんがゴールすると、小柄な体を万雷の拍手が包んだ。60歳走、19秒10、1000メートル走、31秒24の記録を残している。

九十八歳で参加した昨年の第36回全日本マスターズ陸上競技選手権大会（岐阜県岐阜市開催）では、60歳走、17秒02、1000メートル走、27秒20、着実にトレーニングの成果が出ている。高齢のクラスは選手が少なく、違うクラスの選手と一緒に走ることも多いのだが、1000メートル走ではM105（百五歳から百九歳）の宮崎秀吉さん（京都）と同じクラスに臨んだ。そのとき宮崎さんは百五歳で、M100のときの世界記録保持者である。ちなみに60歳走は日本マスターズ陸上の正式種目だが、世界では公認されていない。

今年の六月五日に行われた第34回広島マスターズ陸上競技選手権大会（尾道市で開催）でも健脚を披露、砲丸投げにも挑戦している。その疲労が抜けなかったのか、1000メートル走では30秒をオーバー。しかも、練習では27秒を切ることもあるそうだ。

健康の秘訣は規則正しい生活にある。起床は朝の四時で、分単位の細かいスケジュールが決められている。七年前に奥さんが亡くなられてからは、食事を含めた身の回りのことは自分でこなしている。食事は野菜中心で、朝食には必ず納豆をつける。どんなにお腹が空いていても、ご飯は飯茶碗山盛り一杯。独居だが、同じ敷地内に息子さん夫婦、お孫さん夫婦と二人の曾孫さんが暮らしている。料理の差し入れも多いそうだ。

毎週火曜日の午前中には、三次市福祉保健センターの健康増進室で、マシンを使ってのウエイトトレーニングを1時間。金曜日の午前中は、みよし運動公園の陸上競技場で本格的なトレーニングを二時間。ただし、体調が悪い時は無理をしない。

富久さんは、賞状の揮毫や宛名書きなどの筆ペンによる筆耕の仕事も継続している。最初はシルバー人材センターに登録、仕事をもらっていたが、今は評判を聞いて、直接、仕事を依頼してくる企業や店も多いそうだ。仕事でもいまだ現役、人生の達人である。

# ステイヴンソン『宝島』

## 冒険をかき立てられた

イギリスの作家ステイヴンソンが書いた『宝島』は、世界中の少年たちの冒険心をかきたてたと思われず。もちろん私もです。いまだいうなら「ハリーポッター」みたいだったかもれません。

小説を読んでいない人でも、肩にオウムを乗せて立っている、たくましい片足の男の絵を見たことがあるでしょう。それが、海賊ジョン・シルバーです。いまから130余年も前に出た本なのですが、今も人気があるのはすごいですね。なぜでしょうか。

まず、宝が隠してある島の地図が載っています。がいこつ島とか、遠めがね山とか、ラム入江とか奇妙な名前の地名が描かれています。行ってみたいくなります。この地図をめぐって海賊同士の争いが起こります。

主人公のジム・ホーキンス少年は、この争いで家族で経営していた宿屋を壊され、命が危なくなります。それでも地図を手に入れたジム少年は、地主のトリロニーやリブジー医

師らと、帆船を手に入れ船員を集め、地図を頼りに宝探しに出かけます。ここにシルバーが料理長として入り

年の行動にはハラハラさせられます。正直に言うと、こまかい筋は忘れてしまっていたので、もう一度読み直してみました。夢中になりました。ジム少年が活躍するので少年少女の文学になっていますが、大人が読んでもおもしろいのです。

### また読んでみたい本④

#### 少年少女たちへ

音谷 健郎



【宝島 挿絵】

世界の古典文学にはたくさんの名作があります。そんな名作の中から筆者の心に残る作品を今の少年少女たちにも読んでもらいたいと思い、毎月1冊ずつ紹介していきます。

第4回目はステイヴンソンの『宝島』です。もし興味を持ったらぜひ読んでください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在住。大阪文学学校講師

込むのです。不気味です。

ここまでが前半です。この船出までの準備が細かく書かれていて、まるで自分が航海に出る気分になります。本当の冒険は島に上陸してからです。予想外のことが次々と繰り広げられます。好奇心に満ちたジム少

シルバーという海賊は、冷酷な悪党です。だが、普段は居酒屋を営み、気が利いて愛想が良いと評判の男なのです。信義という感情も少し持ち合わせています。地主のトリロニーたちはすっかり信用して、いい人を雇ったと思いい込んでいます。

しかし、島に着くとシルバーは船員たちを引きつけて反乱を起こします。仲間の海賊何人かを船員のなかにもぐり込ませていたのです。事前に反乱を察知したジム少年の活躍で、船主の地主トリロニーたちとの対決と駆け引きが展開します。

興味深いのは、シルバーが反乱の船員と対立してまで、ジム少年の命を救う場面です。剛胆な啖呵を切り、さえ感じさせます。しかし、これに安心してはいけません。複雑な心理の動きもこの小説の見所です。

宝探しというストーリーは以後、映画やTVの冒険ものによく登場します。決まって裏切りや仲間割れが起こり、悪人と善人がはつきりと分かれます。でも「宝島」ではシルバーが単なる悪党ではなく、もちろん善人でもなく、得体の知れない人間性を見せつけます。

この冷酷な悪知恵を働かせば、帰途の宝の船を奪うことも出来たかも知れませんが、シルバーは少しの金を盗んだだけで姿を消します。人間性について考えさせられます。

なお、私が読んだのは、創元社の「世界少年少女文学全集」第5巻でした。



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

## 「アルジャーノンに花束を」

ダニエル・キイス 著 早川書房

知的障害を持つ 32歳の青年が、開発されたばかりの脳手術を受けて、みるみる知能が向上。天才となった青年は、周囲の尊敬や称賛、恋人をも手に入れるが、同時に社会人としての苦悩を負うことになる。主人公の一人称で書かれた文章は、そのときの知的レベルで書き分けられていて、自然と感情移入させられる。

1959年に中編小説として発表され、アメリカのヒューゴー賞を受賞、1966年に長編として改作されネピュラ賞を受賞した SF 小説の名作だが、日本でも昨年、野島伸司の脚本でドラマ化された。人間の幸福とは何か——、普遍的なテーマが現代のクリエイターをも刺激するのだろう。



## 「天地明察」

冲方丁 著 角川書店

江戸時代前期、将軍に囲碁を教える名家に生まれた青年、安井算哲（のちの渋川春海）は出世に興味がなく、大好きな星の観測と算術に夢中だった。そんな算哲に、日本独自の暦作りという一大プロジェクトの大役が命じられる。

算哲は囲碁の棋士でありながら、神道、算術、暦法、測量等に精通した才人であるが、作中には算哲をはるかに凌駕する天才やその道の巨人たちが登場する。算哲の武器は、周囲の人たちを引き付ける純朴な人間性にある。その成長譚がまた爽快なのだ。



2010年本屋大賞受賞。すべての受賞作を読んだわけではないが、近年ではマイ・ベスト・ワンの作品。

## 「やまあいの煙」

重兼芳子 著 文藝春秋

昭和 54 年の上半期、第 81 回芥川賞受賞作。「やまあいの煙」とは、死人を焼く煙。まだ斎場の焼き場で薪が使われていた頃の話。主人公の敏夫は、死人を焼いて骨と灰にすることを仕事としている。

死者との平穏な日常に、生者である遺族が波風を立てる。遺族のショッキングな告白を聞かされても、敏夫はそのすべてを受け入れる。



「不潔なものや、脂っぽいのもの、しつこいもの、すべて焔とともに煙となって立ち昇ってしまう。あとに残るのは、人間の体の中で最もきれいな結晶である」。死を前にして、すべての人間は公平である。自分の仕事に対する揺るぎない信念と誇りが、羨ましくもこちよひ。

《サンプル広告》

## 土井漢方薬局(平成 27 年 12 月オープン)

あなたにあった漢方薬をお作りします。また、処方箋調剤も受け付けております。足腰の悪い方にはご自宅まで配達もしておりますので、ぜひご利用ください。

東洋医学と西洋医学を専門に学んだ鍼灸師免許をもつ薬剤師が地域の皆様の健康を守り信頼されるかかりつけ薬局として誠実にご相談に応じます。

▶ 営業時間：9 時～18 時まで

▶ 定休日：日曜／祝日

▶ 電話：0824-55-6461

▶ 場所：三次市南畑敷町 38-4

※お車でご来店の方、「カメラのサエダ」「ムラタケ」を目印にお入りください。

「讓児が帰ってくることにまりました」

線香を立てて合掌、心をこめて礼拝した。しかし、目を開けると自然と笑みがこぼれてしまう。目の前の石像は、三年前に亡くなった夫の武雄にどこか風貌が似ている。豊かな耳たぶに大きな鼻。引き締まった唇は、少し右の口角が上がっている。

石像は、目鼻立ちをはっきりするためなのか、眉毛や目の輪郭が黒い塗料でくっきりと描かれている。唇には真っ赤な塗料。まるで眉墨やマスカラ、口紅でメイクしているようだ。不謹慎だと思いつつも恵美は、武雄が化粧した顔を連想してしまう。

「あのお地藏さん、どうしてお化粧しとるん？」  
一人息子の讓児がまだ小学生だった頃、不思議そうな顔で尋ねた。

「ああ、お大師さまのことね。お地藏さんじゃないよ」

乾物屋を営んでいた恵美の実家の裏通りに、そのお堂はひっそりと佇んでいた。

「お大師さまって？」

「弘法大師のことよ。とてもえらいお坊さんだったの」

「そのえらいお坊さんが、どうして

お化粧しとるん？」

言葉につまった。恵美も子供の頃、不思議に思っていた。お化粧地藏、近所の子供たちはそう呼んでおもしろがっていたが、畏怖する気持もどこかにあった。

「誰だって、きれいになりたいという想いは持つとるんじゃない？」

適当なことを言って、ごまかして

「わしに宮仕えは無理だったんよ」

武雄はただ一言、そう言い訳した。恵美は従うしかなかった。

生活が一変した。公務員の安定した家庭の専業主婦から、山懐にある農家の嫁になったのだ。当時はまだ煮炊きに薪を使っていた。味噌や漬物も自家製で、ほとんど自給自足の生活だった。米作だけでは現金収入

## 「お化粧地藏」

あきふゆひこ  
亜木冬彦

現代御伽草子④

※県北の歴史や風物を題材としたファンタジー小説です。

の蓄がほころび始めていた。

お大師さまにお参りしたあとで、一緒にになりたい人がいると讓児は口を開いた。名前はエミリー、アメリカ人だ。五歳も年上で、子供まで二人いるという。カリフォルニアに短期留学したときに知り合った。讓児の思いつめた表情を見て、この子はもう決心しているのだと諦めた。一途で頑固な性格は、父親にそっくりだ。しかし、そのあとの告白には動転した。顔から血の気が引いて、寒気を覚えた。

その夜は修羅場だった。武雄も讓児も、一歩も引かない。赤鬼のようになった武雄が讓児を殴りつけて、勘当を宣言した。家を出て行く讓児を、引き留めることも、追いかけることもできなかった。飲めない酒を飲んで泥酔した武雄は、庭で嘔吐しながら、恵美に問いかけるようにつぶやいた。

「わしは、何か間違ったことをしたんかのう」

自慢の息子だった。難関の国立大学に進学し、奨学金を得て、バイトで生活費を稼いで親の負担を軽くしてくれた。

恵美は何も言えずに、夫の背中をさすっていた。

が乏しいので、シイタケを栽培し、

春は山菜やタケノコ、秋はキノコを

採りに山に入った。武雄はマツタケ

採りの名人で、それで積み立てたお

金は、讓児の大学進学資金になっ

た。

あのお大師さまに参拝したいと讓

児に誘われたのは、大学の卒業を控

えた早春のことだった。庭にある梅



つば広の麦わら帽子をかぶった背の高い女性が、ホームに降り立った。恵美の姿を見つけると、ほっとしたような笑みを浮かべた。真夏でも長袖のニットをはおっているのは、リストカットの傷跡を隠すためだろうか。両手でしっかりと、黒人の幼児を抱えている。

「この子がミッチェルね」

胸に顔をうずめるようにして熟睡している。

「オセワナナリマス」

髭面で、がっちりした白人男性が恵美に手を差し伸べた。力強く分厚い掌だった。農作業や山仕事に向

いている手だと恵美は思った。「ナンシーもジョンも、よく来てくれたわね」

白人男性のうしろに隠れている姉弟に、声をかけた。ふたりとも、はにかんだ笑みを浮かべている。ナンシーは自閉症、ジョンはパニック症候群の疾患を抱えている。

譲児とエミリーは性同一性障害で、肉体に反した心を宿している。譲児は女性の心を、エミリーは男性の心を持って生まれた。エミリーは男性と結婚して、子供までもうけた。しかし、どうしても自分の心を偽り続けることができなかった。

エミリーは、ジョージという名前

の男性として生まれ変わった。譲児は、エミリーの名前をもらって女性になった。

両親からもらった名前を捨てられなかった。今でも肉親に対する罪悪感から解放されていないのだ。

「疲れたでしょ？ わたしに抱かせてくれる？」

譲児、いやエミ

リーが、笑みを浮かべて頷いた。すっかり母親の顔になっている。若い頃の自分の顔によく似ている。恵美はそれが誇らしかった。

ミッチェルが眠そうな目を開いた。吸い込まれそうなつぶらな瞳に、恵美は破顔して思わず頬ずりした。ストリートガールだった母親が麻薬中毒の愛人に撲殺されたのは、この子に何の責任もない。わたしがグラナマ、あなたを守ってみせる。熱い想いがこみ上げてきた。

「オツケー、ゴイング・バック・アワ・ホーム！」

恵美が先頭に立って歩きだした。駅前、使い古した作業用の軽トラックが停めてある。武雄の家に帰って、これからみんな家族になるのだ。

※「山口さんちのお大師さま」庄原市中本町にある山口さん宅の入り口に、弘法大師の石像を祀ったお堂がある。大工をしていた山口留一さんの目が見えなくなり、恢復を祈願して建立されたという話が伝わっている。留一さんのお孫さんや近隣の人に取材したが、お堂が建てられた時期を含めて、それ以上の詳しい情報を得ることはできなかった。

### 【福祉ボランティアグループ「ほほえみの会」】

障害者や高齢者の施設でいろんな行事のお手伝いをしたり、災害被災者の救援活動をしています。無理はしていません。自分のペースで、楽しみながら活動しています。心豊かな時間を、仲間と一緒に過ごしてみませんか。ご連絡をお待ちしています。連絡先：090-7540-9029（寺岡）

## どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など情報掲示板です。

### 【三次鶺鴒を詠んだ短歌をお寄せください。】

●テーマ 三次鶺鴒（みよしうかい）

●応募締切 平成28年7月18日（月・祝）

●応募規定 未発表の作品、ひとり1首まで

●応募方法（所定の用紙に記入し、ご応募ください。）

◆応募箱設置場所

三次市内各図書館・鶺鴒乗船場

※詳細は<https://tosho.city.miyoshi.hiroshima.jp>

〈主催、お問い合わせ、応募〉三次市立図書館 電話：0824-62-2639

## どらくろ俳壇

幽霊の本の囁き古本屋

近藤 昌平

片言の土の風鈴聞きにけり

原 博己

薔薇の園ふり返りまたふり返る

片岡 正人

息切れや坂の紫陽花同行二人

隆 愚

誰を待つ峠の先なる合歡の花

赤川 冬人

## 投稿&寄稿

「祖母の愛思う草木染の制服」

近藤 昌平

街中で、制服を着た中学生を見かけると思いたすことがある。昭和十七、八年ごろ、戦争中ということもあって、あらゆる物資の不足が国民の生活を圧迫しました。当時、私は旧制中学の下級生だった。学生服もくつも極度に不足し時々配給があってもクラスに服は二、三着、くつも二、三足の割り当て。しかもくじ引きで当てない限り、手に入れることはできない。服はスフのよれよれ、くつも豚皮なら上等で、ついにはくじら皮のものまで現れた。そのころ、祖母が蔵の中で糸車を

回して糸を紡ぎ、煮立てて草木で染め、その染め糸で機を織りはじめた。作業は何週間もかかった。祖母は文字通りの手づくりで私の学生服を作ってくれた。当時の制服はカーキ色だったが、祖母の手づくりのそれは茶色の草木染で、この色を着た子はクラスはおろか学校中でもただ私一人であった。私は当時、この服を着るのが恥ずかしくいやいや着ていた。祖母の愛情に気付く心からありがたく思ったのは、成人してからのことである。

※投句を歓迎します。

## 《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介
- ボランティア・ライター(現地記者)募集!

どらくろあで地元の記事を書いてみませんか?

※応募先はどら書房・赤川まで。掲載は無料です。

どらくろあ  
ホームページ

バックナンバーも掲載しているので、ダウンロードしてお楽しみいただけます。

<http://shobara.wix.com/dorakuroa>



今月のどらくろ



この絵をブックカバーにしています。

絵・風太

## 編集後記

◇七月号をお届けします。「群星伝」の富久正二さん、話していても豊饒としていて、今でも車を運転されています。よし、目標は百歳まで「どらくろあ」を発行すること(苦笑)。人生の大先輩に、元気と勇気をいただきました。ありがとうございました。

◇「宝島」はなつかしいですね。日本の漫画や小説にも多大な影響を与えた作品です。現代御伽草子は、ちよっぴり推理仕立てにしてみました。結果が予想できましたか?

◇次号より、三次市立図書館の職員の方々によるリレーエッセイが始まります。楽しみにしてください。投稿&寄稿、情報提供もよろしくお願ひします。

発行：どら書房

〒727-0012

庄原市中本町 2-1-10

☎090(9913)3052(赤川)

e-mail: touzin@sannet.ne.jp

年間購読料：2,000円(郵送費込)

誌面デザイン: ROUTE183

協賛：九日市愛好会

# 九日市だより

## 九日市の歴史③

九日市愛好会 会長 寺岡隆行

東洋大学の創始者である、東京大学教授、井上哲次郎（円了）が明治末から講演旅行で全国を巡った旅行記「南船北馬集」の第八編（東洋大学刊「井上円了選集」第十三巻所収）に、庄原の事が書かれています。

大正二年（一九一三年）四月十八日に庄原を訪れ、東雲座で講演し、旅館右近屋で宿泊。十九日には庄原実業学校で講演しています。その日の九日市の事を、「当日は、市日にして、近在の農夫街上に集まり店頭に群がる、毎月三回九日市を市日とすという」と紹介しています。

近隣の市（いち）のつく地名

- ◆ 庄原市口和町湯木に「一日市」（ひてーいち）の地名
- ◆ 庄原市西城町に「五日市」（いつかいち）の地名
- ◆ 庄原市西城町に「十日市」（とうかいち）の地名
- ◆ 庄原市西城町に「一日市」（ふてーいち）の地名
- ◆ 庄原市高野町に「新市」（しんいち）の地名
- ◆ 庄原市三日市町に「三日市町」（みつかいちちよう）の地名

- ◆ 三次市に「十日市」（とうかいち）の地名
- ◆ 広島市に「五日市」（いつかいち）の地名
- ◆ 広島県廿日市市に「廿日市」（はつかいち）の地名

全国の「九日市」と名のつくところ

- ◆ 新潟県村上市の「村上九日市」（むらかみこのかいち）
- ◆ 東京船橋の合併前の「船橋九日市村」（ふなはしこのかいちむら）
- ◆ 兵庫県豊岡市「九日市上町・中町・下町」（このかいちかみのちよう・なかのちよう・しものちよう）
- ◆ 島根県邑智郡美郷町九日市（このかいち）
- ◆ 大分県玖珠郡玖珠町の「九日市温泉万年（はね）の湯」
- ◆ 宮崎県宮崎市源藤町九日市
- ◆ 沖縄県那覇市の七日マチ（九日市）の甘蔗市（戦前）
- ◆ 愛知県一宮市丹陽町九日市場

九日市復興の経緯

昭和年代に入って、世界大戦の影響で、「九日市」は開かれなくなりました。

・平成十一年八月、庄原市企画課が、「庄原まちかど探検隊」を結成、公募で百二十八名が参加、街のかくれた宝物をさがしました。百六十二件の発見がありました。

・平成十二年三月八日、市民による「まちかどネットワーク庄原わくわく隊」（ボランティア活動）が六十七名で発足しました。

・平成十三年三月九日、空き店舗活用探検班が「九日市実行委員会」を立ち上げ、第一回の「しょうばらくんちいち」を開きました。雪の降る日でした。借用店舗四店、出店十四店、以降、毎月九日に開催、借用店舗も出店者も徐々に増えてきました。



第186回 **しょうばら** **くんちいち** **九日市**  
 平成28年 7月9日 (土) 9:00~13:00

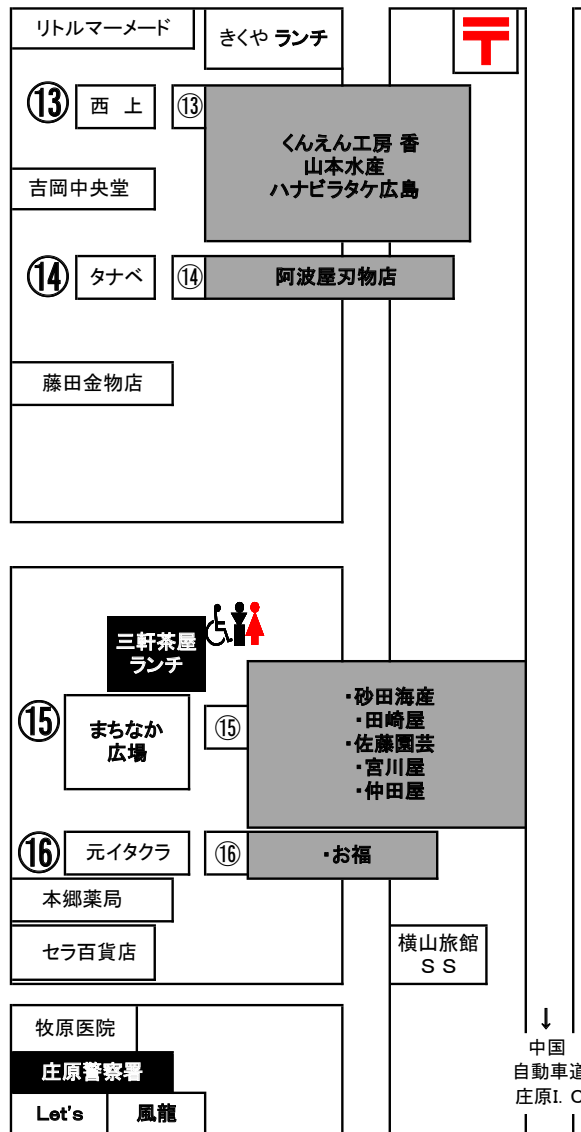
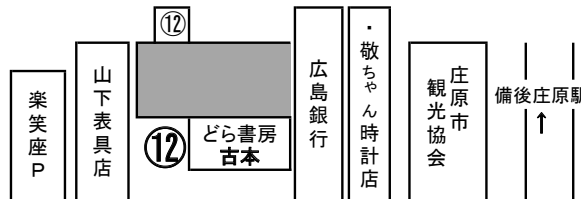
**トピックス**

★市民ギャラリー「アート多愛夢」では  
 九日市手芸愛好会作品展  
 7月8日(金)~10日(日) 10時~16時

★ちくちくハウス玉手箱さん……レッツ前の  
 チャレンジショップで涼やか展  
 7月8日(金)~7月10日(日)

★風龍さん……九日市スペシャル! 餃子200円

★どら書房さん…営業時間 9:30~19:00  
 毎週火曜日と第1.3月曜日はお休みです



当日の天候により、断り無く  
 出店者・出店場所に変更する場合があります。  
 出店申込みは、  
**【毎月20日締切】**コンパネ1枚スペース 1,000円~  
**九日市愛好会事務局**  
 〒727-0013 庄原市西本町 2-1-10 **楽笑座** 内  
 TEL / FAX (0824) 72 - 8285

くんちいちホームページ  
<http://www.kunchi-ichi.jp>  
 直前情報見てね!  
**駐車場**  
**P**  
**庄原市役所**